

# 「美食同玄米」が日経新聞で 紹介されました!!

平成26年12月12日 朝刊

39 北関東経済

【第三種郵便物認可】

## 北関東 異能パンチャー



門奈社長

呼んでいる。

つくば市の住宅街の一角に新しいコメの品種の開発を進める小さな研究室を兼ねたリーゾの本社がある。従業員は40、50歳代の子育て中の主婦ばかり。部屋

「美食同玄米」といって販売を始めた。抗酸化作用を持つポリフェノールがコシヒカリの約5倍含まれる高機能米で、話題を

### リーゾ

▽設立	2009年1月
▽資本金	600万円
▽従業員	6人
▽売上高	730万円
▽本社所在地	茨城県つくば市久保2-9-2
▽事業内容	コメの新品種開発、核販売、ゲノム研究の受託サービスなど



今はゲノム研究の受託サービスなどが主な事業だ（つくば市の研究室）

## イネ開発にゲノム活用

陥り、放り出された。当時、2歳の娘がいて「子育てと仕事を両立できる仕事がないか」とハローワークにも通ったが、「自分が見たいことをやる会社を続けるため、農産物を抽出する試薬キット

その間、コメの新品種開発も進めた。昨年、販売を開始した「つくば黒1号」は、イネの遺伝情報を活用する「ゲノム育種」という方法を採用し、3年で開発することに成功した。12年8月に品種登録も出願した。

従来、コメの品種を開発するには交配を何度も繰り返さなければならず、最低10年かかっていたが、ゲノム育種により開発期間は大幅短縮された。

13年の栽培面積は10ヘクタール。バッククローンは400バック作って、アマゾンでネット通販を始めた。1バック当たり500円と高いが、完売した。門奈社長は「消費者が高価格を見いだしてくれれば、高くても買ってくれる。農家もビジネスと格を高く設定した理由を説明する。今年は栽培面積を3倍に増やし、約13年、濃い紫などの葉を持つつくば黒1号を開発中だ。「田んぼアートがすべてコシヒカリでできたらしいじゃないですか」。田んぼアートで使う米の品種は、色ごとに違っている。古代米なので食べてもあまりおいしくない。

葉の色が違うコシヒカリならば、おいしく食べられることもできる。「5年ほどで開発できれば」と目を輝かせる。

## 北関東

支局 電話  
つくば市 水戸0229-2221-3283  
つくば市 0229-8522-1032  
つくば市 0228-6222-3174  
つくば市 0227-2223-1145

西山彰彦